

西山スマイル

2019.3-2022.3

Vol.1

毎日がドラマチック

人と人がふれあうとき、

感動が生まれる。

それは、何気ない日常の中で起こる。

その人の人生にふれる、その人の優しさにふれる。 人生の先輩と、長く、深くかかわり、共に過ごす。

私たちは、この仕事が好きです。

医療法人社団一穂会 西山病院グループ

理事長 渡邊 大児

西山スマイル

西山スマイルは、西山病院グループの職員が日常の中で出会った、

当グループは1981年の開設以来、 ちょっと感動するお話を一冊の本として編集したものです。 相手の気持ちを思いやる心を大切に、

高齢者ケアに専念してまいりました。

綿々と受け継がれるその取り組みや姿勢を少しでもお伝えできれば幸いです。

	20	20									20	19
3 月	2 月	1 月	12 月	11 月	10 月	9月	8月	7 月	6 月	5 月	4 月	3 月
うれしかった出来事	支え合う	私たちの役割	話しやすく、安心する人	今年の夏の忘れられない、ご利用者との関わり	ご家族との交流も大切に	気持ちに変化をくれた言葉	野菜作りが入院生活に潤いを…	私が大切にしていること	ずっと支えにしている言葉	ご利用者の希望を叶えるために	ご利用者が悔いなく最期まで過ごされるために	愛犬を含めたご家族の支え
20	19	18	16	15	14	13	12	11	10	8	7	6

2022		2021	2020
3 2 1 月 月	11 10 9 8 7 6 5 4 月 月 月 月 月 月 月 月 月	4 3 2 1 10 9 8 7 6 月 月 月 月 月 月	5 4 月 月
介護するということがイに行かないときも多職種での関わりの中で	また一緒に過ごせるね! はいがけない出会い また一緒に過ごせるね!	思い出に残るかかわりを寄り添うで夫婦寄り添うで夫婦寄り添うで夫婦寄り添うで夫婦のかけがない初詣で利用者のお言葉で利用者のお言葉	不自由な中でもできること一本の電話が「日常」を取り戻す
43 42 41	39 38 37 36 35 34 33 3	32 31 30 29 27 26 25 24 23	22 21



愛犬を含めたご家族の支え

看護師/S

られました。

「日様は、ワンちゃんとともに長年一人暮らられました。

「日様は、ワンちゃんとともに長年一人暮ら

お話しされていました。

せん妄の治療には、安らかで慣れ親しん
お話しされていました。
な話しされていました。
ない方やんもまたE様を探すような仕草
の好ご様にE様の現状をお伝えしたとこ
ない方やんもなどが効果的とされていま

けることとなりました。その後、医師の許可を得て、面会の場を設

間の不眠は落ち着いた印象を受けました。

病室に帰ってからもE様の表情はよく、

夜

感謝の言葉をいただきました。といいただきました。別の言葉をいただきました。のでは愛犬と無事に会うことができました。ワンちゃんは車いすのE様に飛び乗り、顔をペロとが、姪ご様より面会を果たせたことへのしたが、姪ご様より面会を果たせたことへのは愛犬と無事に会うことができました。ワンは愛犬と無事に会うことができました。

した。 私が嬉しかったのは、E様がワンちゃんと 和、目じりにしわを寄せ、優しい表情でワン たことでした。閉じていた瞳は大きく見開か たことでした。閉じていた瞳は大きく見開か をいんに声をかけ、自由がきかなくなりつつ は、目じりにしわを寄せ、優しい表情でワン

を提供していきたいと思いました。
もご利用者やご家族の思いに寄り添った看護者に与える影響の大きさを改めて感じ、今後いきましたが、愛犬やご家族の支えがご利用ンちゃんのことを話されることもなくなってンちゃんのことを話されることもなくなって



ご利用者が悔いなく最期まで過ごされるために

看護師/K

ただきました。 先日、K様ご家族から嬉しいお言葉をい

「西山病院で亡くなったKの親族ですが、最後まで好きなものを口から食べさせていただき、本当にありがとうございました。なことができました。ありがとうございました。

、紀á引はきないようです。なくなったため入院された方です。(K様は90歳の女性。ご自宅で食事がとれ

なりました。が難しくなり、病室でお食事されるように歳を重ねるとともにベッドから離れること入院当初は食堂に行かれていましたが、

状態になりました。 士から口から食べるのは危険と判断される嚥下しづらくなり、ついに医師と言語聴覚月日が流れるとともに食欲がなくなり、

あったため、K様とご家族、医師、看護師、れが食べたい」とご希望される場面が多くり「みかんが食べたい」「あれが食べたい」「こ点滴が始まりましたが、K様やご家族よ

になりました。 栄養士、言語聴覚士で話し合いをすること

ました。 持参されたおやつを召し上がることになり 満したうえで、十分な注意のもとご家族が がう強い意向を汲み、危険があることも認

K様は好きな時に好きなものを召し上がり、ご家族に見守られて旅立たれました。り、ご家族に見守られて旅立たれました。

ていきたいと思います。ニケーションをとりながら、チームで支えこれからも、ご利用者やご家族とコミュ



ご利用者の希望を叶えるために

看護師/M

当院へ入院となりました。 国際を繰り返されるようになりました。心的意運動があり、神経症のため精神科病院に入 といるようになりました。心的 できず、腸捻 といるようになりました。心的 はにより検査ができず、腸捻

S様男性のお話です。

宅での介護にお疲れのようでした。 宅での介護にお疲れのようでした。 と動くことが難しくなっていきました。 S様 たい、眠りたい」など不随意運動による苦痛 たい、眠りたい」など不随意運動による苦痛 をは傾聴するケアしかできませんでした。自 がの辛い気持ちが解ってもらえないと感情を がつけられることが度々あり、ご家族もご自

ことをご家族に伝えました。最初は驚き、大希望を叶えてあげてはという意見が挙がったその中で、S様の「家に帰りたい」というごでターミナルケアの話し合いを持ちました。ビールを飲みたい」などと訴えられ、病棟内ビールを食身衰弱が進行し、「家に帰りたい、

になりました。
になりました。
になりました。
になりました。
になりました。
とご不安の声が聞かれま
でなりました。
とご不安の声が聞かれま

ゆっくり頷いてくださいました。 緒に行きましょうね」とS様に声をかけると 様や娘さんはS様と自宅に行きたいとお話 が苦しくてとても…」と否定的でしたが、奥 ご自宅へ帰られる前日、S様は「ガクガク

車いすでの外出でしたが、ご家族と写真撮験が定道」と話され、綺麗に咲いている桜もごが近道」と話され、綺麗に咲いている桜もごが近道」と話され、綺麗に咲いている桜もごが近道」と話され、綺麗に咲いている桜もごが近道」と話され、綺麗に咲いている桜もごが近道」と話され、綺麗に咲いている桜もごが近道」と話され、綺麗に咲いている桜もごが近道」と話されてが、で家族と写真撮りである。

した。 影をされて、「ここがお庭」とS様が手掛けら 食べたい」とモナカを少量口にされたりしま れたお庭を見せてくださったり、「アイスが

れていました。 奥様は「一年ぶりに口から食べた」と喜ば 病院に戻り、S様に「ご自宅に帰られてよ

族のご希望を叶えて差し上げられたことで、 いう予感がしました。 これからさらなるいいケアができるのではと みんながとても温かい気持ちになりました。 してできることを話し合い、ご利用者とご家 とって看護観の自己実現に繋がりました。 る時間を共有させていただけたことは、私に 感謝しています。S様やご家族の喜びあふれ ございます」と涙を浮かべてくださいました。 したが、奥様と娘さんは「本当にありがとう まま何もお答えにならず手を振られるだけで かったですか?」と伺うと、目を閉じられた また、職員もS様個人と向き合って病棟と 今回、このようなケアが実現できたことに



ずっと支えにしている言葉

介護職員/T

彼女とは今からおよそ20年前、ともにデイしている元同僚の言葉があります。介護職員です。そんな私には、ずっと支えに介護職員です。そんな私には、ずっと支えに

容の言葉がありました。けて話した年頭のあいさつに、こういった内新年を迎えたある日、彼女がご利用者に向

ケアで働いていました。

と思って仕事をしています。」等に、ここでの時間を楽しんでいただきたい用頻度の違いなどに関係なく、どなたにも平者です。受けられているサービスの違い、利「皆さんはどなたも同じデイケアのご利用

なりました。
なりました。
なりました。
なりました。
なりまうな介護職員になるという目標ができ、彼はこういうことなんだと思い、自分も彼女のの基本理念である「気持ちの分かる親切」との言葉を聞いてから、西山病院グループ

の死が信じられない気持ちですが、いつも笑た。志半ばだったと思います。私はまだ彼女その彼女は数年前に病気で亡くなりまし



私が大切にしていること

作業療法士/N

との出会いがあります。く意味を明確にしてくれた、とあるご利用者の出会いがありました。中でも私が当院で働私が当院に配属されて一年が経過し、多く

て当院へ転院となりました。

A様は今から二年前にご病気を発症、他院へ入院されました。退院を目指されていましたが、病状の進行に伴い、退院は困難とされていましたが、病状の進行に伴い、人様のお話です。

希望が挙がりました。がいらっしゃり、その成長を見たいというごがお話しする中で、A様には小さなお孫さん

A様はタブレットを使用されていたため、 A様はタブレットを使用されていたため、 がが重要であると痛感しました。 かが重要であると痛感しました。 A様はタブレット操作を取り入 にお願いしました。タブレット操作を取り入 にお願いしました。タブレット操作を取り入 にお願いしました。タブレット操作を取り入 がが重要であると痛感しました。

考えています。私ののであり、リハビリの意味でもあるといただき、そしてそれをサポートするのがご利用者に生活の中で楽しむことを見つけ

いを大切に努めていこうと思います。時間を過ごしていただけるよう、日々の出会時間を過ごしていただけるよう、日々の出会



野菜作りが入院生活に潤いを…

す。利用者とともにベランダで野菜を育てていまの山病院本館二階では、三年ほど前からご

に育てています。から色々なアドバイスをいただきながら一緒栽培中です。野菜作りの経験があるご利用者メロン、トウモロコシ、カブ、すいかなどをくいた。

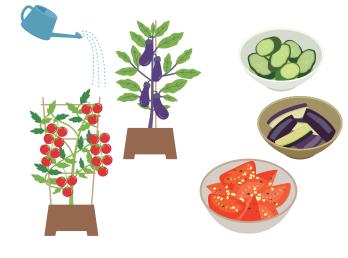
など様々な声が飛び交います。「トマトの水やりは少なめにね。」「カブは15㎝開けた方がいいよ。」「間引きしないとだめだよ。」

てみなさんでいただきました。収穫した野菜は栄養士が調理、浅漬けにし

会話が生まれ、ご利用者が働いていたころの栽培から収穫、それを食べるという過程で、

生きる力にもなります。で入院生活が潤いを運び、さらにご利用者のお話を伺うこともでき、「野菜作り」すること

見守ってくださっています。者とご家族も収穫を楽しみに、野菜の成長を今年もまた、色々な実がつき始め、ご利用



気持ちに変化をくれた言葉

介護職員/B

だったA様です。持ちに変化をくださったのは、以前ご利用者で、悩みの一つでもあります。そんな私の気私はもともと人に話しかけることが苦手

とおっしゃるほどでした。 「まるでもう一人職員がいるみたいですね。」 いてくださっていました。 あっても、きつい口調の方のお話も優しく聞 様を尊敬しておりました。 を聞いてくださるようになり、私はそんなA た。ご利用者にどんどん話しかけられてお話 みしがり屋でお話し好きな面が見えてきまし にだんだん慣れていらっしゃると、 ありました。 やほかのご利用者に喧嘩腰で話されることも 入居当初のA様は、 しかし、グループホームの生活 口調がきつく、 当時の主治医が、 A様は認知症で 本当はさ 職員

いただくことができました。

で、あまり話しかけられないんです。」と答えしまい、正直に「私は人と話すことが苦手んでそう思うの?」と、A様に逆に聞かれてができるのか質問してみました。すると「なり、なぜそんなに積極的にお話しされることり

ました。

私は話をするのよ。」どんな勉強よりずっと勉強になるよ。だからろいろなことがその人の中にあるんだから、十年と生きてきてるでしょ。生きてきた分い「そうなの?」もったいないよ。人は、何

人の話を「聴く」ことの大切さを学ばせてにとって、とても胸に刺さる言葉でした。ただただ苦手意識にばかり気がいっていた私人様の言葉に私はハッとさせられました。

います。 その後、A様は体調を崩されて、ほかの施 はしながら、仕事にも生かしていきたいと思 います。 といろいろお話しし といろいろお話しし



ご家族との交流も大切に

生活相談員/Y

と、「今いちばん辛いこと」や「自分のことが面会にいらしたご家族とお話ししている来られるご家族が多くいらっしゃいます。「西山の杜」には、週に何回と決めて面会に

軽度から重度までの認知症です。 「西山の杜」のご利用者は、ほとんどの方が ご相談を受けることがあります。

誰かわかってもらえないときがある」などの

れます。 れます。 のように挨拶をされるようなことはしばしば のように挨拶をされるようなことはしばしば のように挨拶をされるようなことはしばしば のように挨拶をされるようなことはしばしば

らっしゃいます。 自身を責めるように思われるご家族が多くい宅で看ていればよかったかもしれない」とご日面会に来ないといけない」「入所させずに自好のことをわからなくなったりすると、「毎族のことをわからなくなったりすると、「毎該知症の症状が進んだり、ご利用者がご家

なご家族ほど、様々なことで悩まれるように、とくに、まめに面会に来られるような熱心

お見受けします。

流も深めてきたいと思いました。ていただけるよう、これからもご家族との交双方にとって悔いの残らない入所生活を送っていただけるよう、これからもで家族との交ではなく、ご家族の声も積極的に聞きとり、



れないだろうかと思うようになります。

今年の夏の忘れられない、 ご利用者との関わり

看護師/Y

今年の夏の夜勤中の出来事です。 今年の夏の夜勤中の出来事です。 今年の夏の夜勤中の出来事です。 からお話しされることはほとんどなく、目分からお話しされることはほとんどなく、目分からお話しされることが多い方でした。 なれじついることが多い方でした。 はまがやや持ちなおし、発語も増えていましたが、 このころは状態がやや持ちなおし、発語も増えていました。

「ら、配さに、配さにで、、高しでおくをやすい場所にベッドを移動しました。いと思い、窓のカーテンを開けて花火が見え花火をご覧になりたいんだ、私もご一緒した私は、手招きして呼んでくださったT様は

もうれしくなり、もっと何かして差し上げら で覧になっているT様の姿に、私もとてもう ご利用者が喜ばれたり、いつもとは違う反 にを見せてくださったりすると、 喜んで花火を

くなってしまいました。れたり何かに反応されたりすることができなあれから時が経ち、現在のT様はお話しさ

だきたいと思います。 日のことを胸に、これからも援助させていたごしていただけるよう花火鑑賞をご一緒した

残された時間をT様とご家族に穏やかに過



話 しやすく、安心する人

分からず必死に仕事を学んでいました。 に一切関わったことがなく、 そんなある日、とあるご利用者から「あな 私が入職したばかりのころのお話です。 西山病院グループに入職するまで介護関係 当初は右も左も

安心するのか全く理解ができませんでした。 ことを今でもよく憶えています。 たがいると安心する。」と、言っていただいた その時はなぜ知識も何もない新人の自分に

ました。 聞いてくれるの。」と、おっしゃってください で話しかけにくいけどあなたはちゃんと話を か?」と伺うと、「ほかの人はいつも忙しそう のにどうして私がいると安心されるのです 「ベテランの方がたくさんいらっしゃる

私はそれを聞いてはっとしました。

す時間に当てるようにしていました。 もあり、 はまだ分からないことが多く、手が空くこと 者とお話しする時間を作りづらいけれど、 確かにほかの方は忙しく、なかなかご利用 そんな時はできる限りご利用者と話

多くの職員のいる中で、

ご利用者に私のこ

なくなってしまいました。 しくなり、 いただけたことをとても誇りに感じました。 とを話しかけやすい人、安心する人と思って 入職から数年が経ち、今では私も業務が忙 なかなかご利用者との時間を作れ

介護職員/0

用者との日々の小さな関わりを大切に努めて いこうと思います。 でも、その時のことを忘れずに「話しやす 安心する人」であることを心掛け、 ご利



Nishiyama Smile

2020

当院も面会中止となり、
ま京五輪・パラリンピックが東京五輪・パラリンピックが
東京五輪・パラリンピックが

人々の暮らしも一変しました。

私たちの役割

た せの 役害

せていただいています。在宅と様々な場でご利用者やご家族と関わら私たちリハビリ職員は、入院、入所、通所、

ると私は考えています。ちろんですが、「きっかけ」づくりも重要でありハビリ職員として、日々の機能訓練はも

でした。 たきりで日常生活動作の大半が全介助の状態A様は突然ご病気を発症されて、約五年間寝私の担当にA様というご利用者がいます。

「自分でご飯が食べれるようになりたい。」 「自分でご飯が食べれるようになりました。 A様 の望みを叶えるべく私は多職種と情報共有し の望みを叶えるべく私は多職種と情報共有し の望みを叶えるべく私は多職種と情報共有し でいる はいい ス 様の唯一のご希望でし に 頑張られて、ようやくご自身で食事ができ ながらリハビリを行い、 A様の唯一のご希望でし これが介入当初、 A様の唯一のご希望でし これが介入当初、 A様の唯一のご希望でし

叶うようになりました。という新たなご希望が生まれ、次第にそれもけ」となり、「車いすに乗って散歩をしたい。」で希望がひとつ叶えられたことが「きっか

活したい。」などと話されています。うになり、「東京オリンピックまで元気に生最近ではさらに多くのご希望が聞かれるよ

理学療法士/N

することがなくなりました。助の状態ですが、今ではもう希死念慮を口に助の状態ですが、今ではもう希死念慮を口に

ことができたと考えています。欲となり、お気持ちや生活を前向きに変えるかなえられたという「きっかけ」がA様の意私は、難しいと思われていた最初の希望が

に今後も取り組んでいきたいと思います。みとなり、前向きになる「きっかけ」づくりす。ご利用者にとって日々のリハビリが楽し生活が変わるご利用者は多くいらっしゃいま名様だけでなく、リハビリで機能改善して



支え合う

看護師/M

とです。 A様が、初めてデイケアに来られた時のこ

へ羨は混乱く、戦員の言葉に耳を頂けたらいっぱいに溜めて訴えておられました。た…」「黙って帰るなんてひどい…」と涙を声をかけた職員に、「娘が私を置いて帰っ

ともしませんでした。A様は混乱し、職員の言葉に耳を傾けよう

が点になりましたが、A様の涙が止まり、昼傍にいた私は、突然のその言葉に思わず目だよ!」と、はっきりおっしゃいました。しばらくして、隣にいたB様がA様に「こしばらくして、隣にいたB様がA様に「こ

食が始まりました。

「お食事はいかがでしたか?」と職員がA「お食事はいかがでしたか?」と職員がAくA様を見守りながら召し上っていました。B様をはじめ同じテーブルの方々は、優し

みなさまのおかげで、A様は初日を無事に答えてくださいました。

「ねえ、今日のBさんの言葉、素晴らしかっ帰り際に、同じテーブルだったC様が私に、終えることができました。

たよね」とおっしゃいました。

いました。 方々に囲まれていることをとても誇らしく思お仲間をたたえられるC様、こんな素敵なお体は、B様のA様を思う優しいお心遣いと

感しました。 ち職員も日々支えられていることを改めて実また、多くのご利用者の言葉や行動に私た

言葉を通して教えていただきました。 開けていくのではないかと、今回のお二人の え合っているからこそ今が成り立ち、未来が す。ご利用者も含め、全ての人がお互いに支 す。ご利用者も含め、全ての人がお互いに支 がいています。職員は、そのようなみな にご利用者のリハビリへの意欲が高まり、活



うれしかった出来事

博

を行っています。 対応していけばよいかを常に考えながらケアらしく過ごしていただくために、どのようにグループホームでは、認知症の方がその人

と、言葉をかけてくださいます。
く、積極的にお手伝いもしてくださり、笑顔の、積極的にお手伝いもしてくださり、笑顔のがからで「働かせてね。働くことが大好きだから。」

考えていました。 私は、そんなB様が喜ぶことは何だろうと

ますかとお願いしてみました。つを準備していたので、お茶も出してもらえ日、B様と一緒にC様とご家族のためのおやご利用者のC様のご家族が面会に来られた

部屋へ伺いました。 お茶を届けるため、B様と一緒にC様のおつつもお茶を淹れてくださいました。 するとB様は、「私でいいの?」と戸惑われ

C様のご家族が帰られる時のことです。下さったことを伝えて退室しました。私は、C様のご家族にB様がお茶を入れて

て様のご家族が、「先ほどはお茶をありがと で様のご家族が帰られた後、B様が来られ、 ではない人に褒められた後、B様が来られ、 ではない人に褒められた後、B様が来られ、 でけなのに、こんなに感謝されるなんて!」 と、今までとは比べようのない笑顔で職員に を、今までとは比べようのない笑顔で職員に と、今までとは比べようのないに、 ない気持ちになりました。

も仕事に向き合っていきたいと思います。「その人らしく生き生きと」を忘れずに、今後何が正しいかはとても難しいことですが、ません。

C様のご家族のやさしさにも感謝しかあり



本の電話が「日常」を取り戻す

看護師/M

現在、新型コロナウイルスの流行にあたり、現在、新型コロナウイルスの流行にあたり、現在、新型コロナウイルスの流行にあたり、現在、新型コロナウイルスの流行にあたり、現在、新型コロナウイルスの流行にあたり、

けてみました。
「A様の息子さんが仕事を終えられて、いつ「A様の息子さんが仕事を終えられて、いつち。面会が無理でも電話でのお話は可能ではた。面会が無理でも電話でのお話は可能ではかいかと思い立ち、A様にナースステーションまでいらしてただいて息子さんに電話をからなど、ある日の夕方、私は時計を見ながらふと、ある日の夕方、私は時計を見ながらふと、

されていました。 A様は、息子さんに「うん、うん、元気だよ。 ではんしっかり食べるね」と笑顔で話 では来られないのよね? うん、元気だよ。

なビックリならいつでも大歓迎です」と喜ばきたので何事かとビックリしましたが、こんたが、息子さんは「施設から電話がかかってその後、私が電話を変わってお話ししまし

子でした。 イな」と元気に過ごされる目標となったご様た。安心した。元気にごはん食べなきゃいかれていました。A様も「息子と話せて良かっ

エピソードでした。
動することの大切さを考えさせていただいたな時でも自分は何ができるだろうと考え、行の理由によってできなくなってしまう。そんのでもは分は何ができるだろうと考え、行いまえに送っていた日常が突然なんらか



不自由な中でもできること

中止しています。 必然的に外に出て行う散歩や花見等はでき 施設のご利用者との接触を制限しています。 当院でも予防対策としてご利用者の外出や他 新型コロナウイルス感染症の流行により、 他施設間での大きなレクリエーションも

ランダから駐車場の桜が見られることを思い 来れたのになあ」と思っていると、院内のベ いるのを見て「去年はご利用者を連れて見に は簡素なものになってしまうのも事実です。 げようと尽力していますが、 多少なりともご不満の声が聞こえてきます。 ご利用者からも、 そんな中、 私たちも日々のレクリエーションで盛り上 あるご利用者をお誘いしました。 院内駐車場の桜が綺麗に咲いて 変化がなく退屈な生活に 職員の少ない日

よ!」とおっしゃってくださいました。 しい時に、こうして見せてくるだけで嬉しい ど…」と申し訳なく感じていると、「こんな忙 え」と、笑顔でご覧になっていました。 私は「近くから見れたら良かったんですけ その方は「上から見る桜なんて珍しいね

> 感動しました。 とても優しい言葉を掛けていただいたことに 様々な面で不自由を感じられている中で、

介護職員/o

なサービスを提供いたします。 これからもご利用者に喜んでいただけるよう ませんが、感染症には十分に注意しながら 現在のような状況がいつまで続くか分かり



思 い出に残るかかわりを

理学療法士/N

した。 として外出レクリエーションを実施してきま しているご利用者を対象に、社会交流の一環 2019年度より年に一回程度、 山病院リハビリテーション課では 入院・入所

参加されたご利用者は、食事や買い物、 趣

味活動を楽しまれていました。

考えます。 転換が図られ、 かったご利用者が参加され、 院生活が長期化し、外出の機会がほとんどな お互いに懐かしく感じることがあります。 靴下は外出したとき一緒に買ったものだよ。」 の時食べたお寿司がおいしかった。」「この ご利用者は当時のことを鮮明に覚えており、 一、二年経った今でも「また行きたい。」「あ お話されることが多くあります。 思い出の一部となっていたと 社会交流と気分 入

いらっしゃいます。 減り、日々寂しさや退屈さを訴える方が多く 当院では現在、 そのため、 面会・外出制限を設けています。 ご家族、 新型コロナウイルス感染症 ご友人との交流機会が

> 動を継続したいと思います。 らご利用者の思い出に残り、 未定ですが、引き続き日々のかかわりの中か 今年度の外出レクリエーション開催は現在 楽しみとなる活



デイケアを通じて…ご家族の絆

介護職員/S

バラエティーに富んでいます。ともに行う大正琴やハンドベルの演奏など、ポーツ要素を取り入れたゲーム、ご利用者とた体操、音楽に合わせて体を動かしたり、ス腰痛予防体操・便秘解消体操など目的をもっは、毎日様々なコンテンツを行っています。西山病院通所リハビリテーション東館で

ご利用者の言葉を紹介させていただきます。その中で、手作業のコンテンツに参加した

ありがたい。」
ありがたい。」
おりがたい。
「若い頃から農業しかしてこなかったが、知らないことを職員さんが教えてくれてこんなに幸せなこと職員さんが教えてくれてこんなに幸せなことでもできるように一緒に考えてくれるので

くことを楽しみにしています。ださいます。職員もノートを読ませていただに、その日の感想を日記のように記入してくこの方は、デイケアとご家族を繋ぐノート

ご家族との絆が今まで以上に深くなり、そこデイケアで行っていることで、お孫さんや

思います。 に私も関わらせていただけることをうれしく

う、これからも支援させていただきます。ケアを通じて楽しみや生きがいを持たれるよー多後もご利用いただいている皆様が、デイー



かけがえのない出会い

介護職員/Y

A様は80代の男性で、雪が積もる地域からなができない方のお話をしたいと思います。とができない方のお話をしたいと思います。とががありました。その中でも、この先忘れることができない方のお話をしたいといいる

さったのが印象深い方でした。きで毎日痛いくらいの力強い握手をしてくだ来られました。とても社交的で、冗談がお好

さいました。 いてとても気持ちがいい!」と、 ○○さんに対してのものの言い方が、聞いて にいらしたA様が真剣な表情で「お前さんの 整容のお手伝いをしていた時のことです。 とがあります。 数多くあります。 りました。そんなA様から教わったことは、 いだけだ。」と、気遣ってくださる優しさもあ した。そんな時も「謝らんでいい。 ある時、職員がご飯を炊くのを忘れてしま 食事の時間に炊けていないことがありま ある朝、 中でもとても嬉しかったこ 私が他のご利用者の 褒めてくだ 待てばい

たが、それと同時に、認めて下さる言葉に胸普段通りに接していただけなので驚きまし

とでした。とでした。とでした。とでした。とのお別れは突然でした。をんなA様とのお別れは突然でした。がいっぱいになりました。

ご冥福をお祈りしたいと思います。 でに時間がかかりました。今でもついつい A 様の姿を探してしまうことがあります。 だいただける対応を続けていくことが、天があると思いますが、「気持ちがいい」と思っがあると思いますが、「気持ちがいい」と思っがあるとにはる対応を続けていくことが、天があると思いますが、「気持ちがいい」と思っていただける対応を続けていくことがあります。



寄り添うご夫婦

時期に入居されていたことがあります。 西山の杜では、これまで三組のご夫婦が同

にあるように…。」と私たちを導いてください のご夫婦が「特養の生活が、 その中でも、開設当初に入居されたひと組 自宅生活の延長

となりました。 スの介入をしましたが、妄想のある奥様が拒 でお世話をされていました。訪問介護サービ そのご夫婦は、ともに認知症がありました 這って移動していたご主人を奥様が自宅 「西山の杜」の開設と同時に措置的入居

かに過ごすことができるようになりました。 ときは奥様にお手伝いいただくことで、穏や ことにしました。 てもうひとつの部屋は二人の衣装部屋にする 全員で考え、ひと部屋に2つのベッドを並べ ことができないご様子でした。そこで、職員 二人を引き合わせたところご主人から離れる 行いやすいよう夫婦別々のフロアにしました 入居当日、介護量の多いご主人のケアを 奥様のご不安は想像以上のもので、一度、 さらにご主人のケアをする

> とができました。 くなられたときも、 入居されて数年が経ち、ご主人が肺炎で亡 奥様が手を握って送るこ

看護師/H

しゃっていました。 れてから夫婦仲が良くなり、安心したとおっ も心配されていましたが、 が一時不仲だったこともあったようでご家族 ます。ご自宅で生活されていたころ、ご夫婦 向ぼっこをしていたお二人の姿が今も浮かび 車いすのご主人の横に寄り添って座り、 当施設にご入居さ

います。 を職員全員でこれからも考えていきたいと思 者とご家族にとって安心できる「終の棲家」 に支え合い、共に暮らす」を念頭に、ご利用 西山の杜の理念である「共に寄り添い、



量から始めました。

様子を見ながら少しずつ 口からの摂取をごく少

胃ろうを造設後、

乗って食堂でとることができています。 進めたことで、現在は三度の食事を車いすに

寄り添う看護

ため、 されてきたご利用者のお話です。 ご家族からのご要望は、 脳出血を繰り返す中で、 経管栄養の状態で急性期病院から転院 嚥下機能の低下の

助をお手伝いいただいています。

ご家族は食事時に面会にいらして、

食事介

看護師/N

とってあげたい』 『本人の状態が安定したら鼻に入った管を

こともできました。

ご家族から「ベッドでずっと寝ているとき

レストランのような雰囲気を楽しんでもらう

お食事会のイベントにもご参加いただき、

することから始めました。 に説明させていただき、まずは胃ろう造設を が起こりうるデメリットがあることをご家族 トもありますが、 リスクが高く、外すかどうか悩みました。 お口から摂取されていなかったため、 お嫌なのは理解していたものの長期間食事を 外せばご本人のストレスがなくなるメリッ 時々、ご自分で管を抜いてしまわれるので 誤嚥性の肺炎や状態の急変 様々な

して外せないかとのご相談でした。 鼻の管を嫌がっていると思うので、どうにか 『口から栄養を摂ることで刺激を与えたい』 です。 しゃっていただいたときはとても嬉しかった と表情が全然違う。 長い療養生活のなかで、 やってよかった。」とおっ

に寄り添う看護をこれからも提供していきた いと思いました。 ご利用者とご家族



Nishiyama Smile

2021

変異株が猛威をふるいます。 でクチン接種が開始され、 一歩が踏み出されました。 誰もが早い収束を願う中、

気づかせていただいたこと

介護職員/T

れました。 どうかしたの?」と、Y様が私に尋ねてこらどうかしたの?」と、Y様が私に尋ねてこら

れる方もいらっしゃいます。方、ご利用者の体調やご家族の都合で中止さます。長く通所されているご利用者がいる一デイケアではご利用者の入れ替わりがあり

も意欲的です。 エーションにも参加され、リハビリに対して利用者との交流が良好で、ゲーム等のレクリーのでででである。ほかのご

せられました。せられました。「一寸先は闇だからね。私をいつデイに来られなくなるか分からんかめ、職員には感謝しかないよ。今まで本当にめ、今のうちに言っておくね。Tさんをはじめ、でいるがとう。」とお言葉をいただき、はっとさせられました。

されました。

されました。

されました。

普段、介護やレクリエーションをしているされました。

「こちらこそ本当にありがとうございます。」大切なことに気づかせてくださったY様、添った介護」をしていきたいと思います。



思いがけない初詣

看護師/M

ます。 族との面会や外出などができない状況にありり、今まで当たり前のようにできていたご家り、

作ってもらうことができました。発したひと言で、施設課職員に立派な鳥居をわっていただきたいと療養棟職員が何気なく

社」の完成です。 箱、おみくじまで加わり、その名も「長寿神クワクしました。鳥居だけでなく、社や賽銭と味もふた味も違うお正月になると職員もワとの完成度に驚きつつ、今年のお正月はひ

「コロナ渦なのに密だね。」と笑いながら、の前にはすぐに長蛇の列ができました。新年となり、ご利用者に声をかけると神社

れていました。
ている方が背筋を伸ばして熱心にお参りをさ方、中には普段車いすでうつむき加減に座っ唐居の前ではご自身やご家族の健康を願う

「うんめえなぁ。」と、お顔を上げて喜ばれ参拝後は特別に用意した甘酒をひと口。

思いました。 るご利用者の姿を拝見して、とてもうれしく

きな形となったことに感動しました。ただけたこと、何気ないひと言がこんなに大い表情を見られたこと、一緒に参拝させていこのささやかなイベントでみなさまの明る

いきたいと思います。 よう、私たち職員一同、これからも頑張ってが、ご利用者に安心して生活していただけるまだまだ先の見えない状況ではあります



ご利用者のお言葉

ましたので、紹介させていただきます。 ご利用者よりありがたいお言葉をいただき

その処置の早さに感動しています。 『私の言ったことが、すぐ職員全員に伝わる』

「大変なことも、大声を出さずに静かに処理

届いております。 組織の運営は大変と思いますが、よく行き

『食べる時はテレビを消して、音楽を流す』『食事前はテレビを放映していますが、食事のもありますが、懐かしい曲もあり、とてものもありますが、懐かしい曲もあり、とてものもありますが、懐かしていますが、食事

ださる』のナイチンゲールのような心で面倒をみてく全員が、患者の一人ひとりに寄り添い、西洋堂師・リハビリの先生・看護師・介護士等

今まで何カ所かの病院に入退院を繰り返してきましたが、念願叶って家の近くでもある 西山病院に入院しましたが、こちらで驚き感 あたたかい心にすがって必死に生きようとし ましたが、念願叶って家の近くでもある

たケアに励んでまいります。 これらのお言葉を胸に、今後も心のこもっ



日々のささやかな変化

下を紹介させていただきます。 、ご利用者が劇的に改善したりするよく中で、ご利用者が劇的に改善したりするような変化が起こることはあまりありません。 すったり、すぐには気がつかずに過ぎ去ってしまったり、すぐには気がつかずに過ぎ去ってしまったり。けれど、そんなとても「さなやかな変化」にほっこりした、あるエピソーと、大抵は、変化に気がつかずに過ぎ去ってしまったが日々リハビリを提供させていただ

へ様は、ふごし「あ―あ―あ―しこごけそるご利用者A様がいらっしゃいます。 失語症でなかなか言葉を発せられない、あ

とが多々あります。「このリハビリは嫌じゃないかな?」と気になっても、確認できないこ合、ご本人の気持ちを伺うことが難しいため、コミュニケーションが取りづらい方の場

を継続していきたいと思います。くても前向きにリハビリに参加されていることが分かり、とても嬉しかったです。とが分かり、とても嬉しかったです。とが分かり、とても嬉しかったです。



理学療法士/K

お力添えできればと思っています。

となるようより良い毎日のために職員一同で

脳裏に焼き付いて、

素敵な思い出の一ページ

日々が、青春時代や職場での思い出とともに

元気にデイケアへ通われているお二人の

思 いがけない出会い

介護職員/0

デイケアでは、 思いがけない出会いが生ま

えてくださいました。 たことやさらには職場の同僚だったことを教 知り合いですか?」と尋ねると、 いました。その様子に職員が、「お二人はお ちらからともなく「あら~、お久しぶりです 人がお会いした時、お顔を合わせた途端にど 始めたばかりのK様のお話です。 れることがあります。 長年、デイケアに通われているS様と通い お元気でしたか?」と言葉をかけられて 同級生だっ 初めておニ

く映りました。 生のように可愛らしく、 再会されたそうで、 くありますが、お二人は偶然、当デイケアで 学生時代の思い出を語るお二人の姿は女学 デイケアは西山病院グループ以外にも数多 大変驚かれていました。 私の目には微笑まし



願 いを叶えるために らご自宅でのお看取りる

看護師/M

も大きなストレスを与えています。直接会えないことは、ご利用者にもご家族に月より当院でも面会制限が開始されました。新型コロナウイルス感染拡大の中、昨年三

いを大切に想われていらっしゃいました。も楽しみにされておられ、ご家族ともにお互ご利用者のA様もまたご家族の面会をとて

状態でした。 望されましたが、それを叶えることは難しい今年のお正月、A様が「外泊したい」と希

まったのです。れ、寝たきりそして看取りの状態となってしれ、寝たきりそして看取りの状態となってし

位変換、 思いであろうと、 は戸惑いました。 しかし、 い」と自宅でのお看取りをご希望されました。 後は自宅で家族とともに過ごさせてあげた ご家族は、面会が自由にできないのなら「最 在宅介護を選択されることに私たち職員 ぜひ叶えて差し上げたいと思いました。 A 様は、 口腔ケア…と介助量が非常に多いた 決意されたご家族をサポー それでもきっとA様も同じ 喀痰吸引 オムツ交換、 体

> ると、 ピッチで退院準備を行うこととなりました。 ていないと思いました。 をみせるA様を見て、 ました。 制限があり、 面会制限下では、 死期が迫る中、 毎回来られたことが分かり、 しかし、 日程調整と指導の方法に苦労し 指導のためにご家族が訪れ 退院指導にも日数と時間の 二週間後の退院を目標に急 ご家族の選択は間違 柔和な顔 つ

だきました。と各在宅サービスの方々に本当にご尽力いたの物品準備の調整には、居宅ケアマネジャー訪問診療、ベッドや吸引器、エアマットなど訪問診療、ベッドや吸引器、エアマットなど、短期間での訪問看護、訪問介護、訪問入浴、

立たれたそうです。それからA様は、数日を自宅で過ごし、旅すると、A様が柔和なお顔をされていました。退院当日も、一階のロビーでご家族と対面

ことを学ばせていただきました。としても施設ケアマネジャーとしても多くのかったです。私自身も今回の経験は、看護師見守られながら最後を迎えられて本当に良風様が大切に想っていた自宅で、ご家族に

顔なじみ

もので五年目になりました。 私が西山病院グループで働き始めて、 早い

だくことも多々ありました。 「ゆっくりでいいよ」とご利用者にご心配いた なんとか独り立ちしてからも、「大丈夫?」 んあって、焦りからミスばかりしていました。 不安の多い日々でした。覚えることがたくさ た「グループホーム」での勤務ということで、 に加え、 入職当時は、 専門学校ではあまり触れてこなかっ 初めての社会人ということ

ていました。 「また今日もダメだった」と自己嫌悪に陥っ てからも、 てしまい、 という気持ちが先行して業務ばかりを考え 一日が過ぎていました。仕事を終えて帰宅し 「しっかり仕事をこなさなければいけない」 周りが見えずに一人バタバタして 「また今日もミスをしてしまった」

なさまが温かく迎えて下さいました。そのお ね!」「また会えたね!」と、ご利用者のみ 取り重くホールへ向かうと「しばらくぶりだ なと考えました。それでも次の出勤日、 私は何度も、 辞めたいな、 向いてない のか 足

> 者に感謝しています。 かげで今日まで勤務することができ、 ご利用

介護職員/N

るようになり、 えられるようになってきました。 行えるかもっと楽しく一緒に過ごせるかと考 だんだん仕事にも慣れて自然と周りが見え どうすればご利用者と一緒に

を裏切らぬようなお一層精進し、 続けていてよかったと思うのと同時に、 けるようになりました。頑張ってこの仕事を 気になれる。」と、 くれると安心だよ。」「優しいお兄さんが来て めて頑張っていきたいと思います。 くれた。」「あなたの顔を見ると、こっちも元 最近では、 ご利用者から「あなたがやって とても嬉しい言葉をいただ 身を引き締



笑顔でのお見送り

10 は見ばり

『西山の杜』では、ご利用者をご家族と一緒

経験があります。
とです。しかし、私は、ご家族、職員ともにとです。しかし、私は、ご家族、職員ともにお別れするということは、とても悲しいこを思ってご本人との時間を過ごすでしょう。

伺い、ご家族と思い出話をし、時には冗談をになる1時間ほど前に私たち職員がお部屋にないものでした。けれど、A様がお亡くなり職員との思い出もほかの方に比べてとても少ご利用者であるA様は、ご入居期間が短く、

思いました。 思いました。 思いました。 をえながら談笑していました。 をえながら談笑しているがから「悲しいか?」と考えましたが、ご家族から「悲しいか?」と考えましたが、ご家族から「悲しいながら」とおっしゃっていただけたい。 にないので息をお引き取りになられました。 をえながら談笑していました。 A様は、その

をさせていただきたいと思います。とっても悔いの残らないお見送りのお手伝いとれからも、ご本人だけでなく、ご家族に



失ってから気づくこと

介護職員/U

くようになりました。近年、この言葉を耳にタコができるほど聞〝新型コロナウイルス〞

しかし、人間というものは失うことでやったくさん奪われてしまいました。をうさん奪われてしまいました。かがたがでいたり前のように生活の中にあったものがないでいる。

たりまえになってしまう前に、しっかりと向は遅いのです。いつの間にか大切なものが当このような状況になってやっと気づくのであなたの失いたくないものは何ですか?とその大切さを痛感するものです。

ることができるのが、人生であと数回かもしい。あなたとこうして向き合って音楽を届けち、あと何回あなたが来てくれるかわからなと何回ライブできるかもわからない。そのう「いつ解散してしまうかもわからない。あるミュージシャンが言っていました。

らないはずです。

渦であろうとなかろうと、大切なものは変わき合わなければならないと思います。コロナ

ることができるでしょうか?とて、好きな人に会えて、好きなものを食べ人生の中であとどれくらい好きなことがでいるこの瞬間がとても大切なんだ。」と。れない。そう思ったら、あなたとともに生きれない。そう思ったら、

終わりはいつも突然です。新型コロナウをなたの大切なものの尊さを痛感できたのです。しかし、それ以上に、当たり前が失われす。しかし、それ以上に、当たり前が失われ

ています。 して生活できる日々が戻ってくることを願っロナウイルス感染症の流行がおさまり、安心きていきたいものです。少しでも早く新型コキでいきたいものです。少しでも早く新型コキッのでは、精一杯大切にして生



食べることの大切さ

管理栄養士/N

がいつかは来てしまいます。 い『食事』。 事』をしています。「毎日のメニューを考える が面倒」とか、その程度にしか考えていな 私たちはいつも当たり前に朝昼晩と『食 それが当たり前に食べられない時

が入院されました。 重度の誤嚥性肺炎を繰り返している9歳の方 西山病院グル ープに勤めて2年目のこと、

の歩行が可能で耳が遠いだけの状態でした。 本人はしっかりされていて、 のムセも頻回でした。そのような状況でもご 殊な嚥下用スプーンを使用、 要介助、水分はジャム状のとろみが必要で特 その方は、 入院当初は痰がらみも著明で、 食事条件は、ベッド上で背もたれを30度: これらを守って食事を開始しました。 いつも食事介助に恐縮されてい シルバーカーで 副食形態はミキ 食事摂取時

> 5 ご本人の食事に対する強い思いと頑張りが 肺炎を発症し入院されました。 れてご自宅へ戻られましたが、 もに喜ばれていました。その後、 かった! きました。「誤嚥性肺炎を繰り返していたか 軟飯・常食にまで食事形態を上げることがで あって、一年がかりで薄いトロミ・ひと口大・ 中止・点滴のみという期間もありましたが、 容を何度も検討しました。 自分で普通の食事ができるなんて思わな 本当によかった!!」とご家族とと 度々発熱し、 再度、 在宅復帰さ 誤嚥性

す。 普通に食べられる喜びを教えていただけた出 のひとつです。 まった時、 会いでした。 普段できていることができなくなってし 口から普通のご飯が食べられることもそ 人は初めてその大切さに気づきま 改めて毎日の食事に感謝し、



相談し、 した。 ご本人は「自分の手で食べたい、

普通(お粥)

た記憶があります。食に対しての意識が高く、

の食事が食べたい」と強いご希望をお持ちで

なんとかできないかと多職種で連携 嚥下訓練やリハビリを行い、

食事内

また一緒に過ごせるね!

医療相談員/-

ご主人が呉燕生市及こなられ、急生期靑完別養護老人ホームで過ごされていました。 M様ご夫婦は、西山病院に入院する前は特

きず、当院に入院されました。ことから特別養護老人ホームに戻ることがでで加療後、食事摂取が困難となってしまったご主人が誤嚥性肺炎になられ、急性期病院

ました。
取ができるようになり、M様が活力を戻され関わらせていただいたことで少しずつ経口摂関わらせていただいたことで少しずつ経口摂いから、多職種のスタッフがチームでケアになんとか口から食べられるようにという思

ときでした。
ときでした。
ときでした。
とれはとても微笑ましく、心温まるひとを取り合って喜ばれている光景を目にしましの席に着いていただいたところ、お二人で手の席に着いていただいたところ、お二人で手

今までの暮らしの中で山あり谷ありだった

じました。で一緒に居られることが幸せなんだなぁと感かとは思いますが、やっぱりいつまでも夫婦

感しました。 気持ちがひとつになって実を結んだことを実M様ご夫婦をはじめご家族とスタッフ全員のご家族にも安心していただくことができ、





私たちは一人のご利用者に対して多職種で

関わり、

情報を共有し、より良いケアに努め

多職種での関わりの中で

理学療法士/K

です。

目に見えて分かるとは限らないものまで様々伸びた」という目に見えて分かる変化もあれば、「膝が少し伸びやすくなった」「前より動ば、「膝が少し伸びやすくなった」「前より動リハビリの効果は、「介助がなくても立てりハビリの効果は、「介助がなくても立て

エピソードをご紹介します。とで、ご利用者のリハビリ効果を実感できたとんな中、看護師からの声かけがあったこ

otc。 A様は筋肉の緊張が強く、関節が動きづら した。

とても嬉しかったことを覚えています。際、「Aさん、柔らかくなったね」と言われて、ある日、看護師とA様のことを話していたいるだけなのかな」とも思っていました。いると感じるのと同時に「自分がそう感じていると感じるのと同時に「自分がそう感じていると感じるのと同時に「自分がそう感じていると感じるのと同時に「自分がそう感じていると

ています。

にしていきたいです。より充実した施設での生活に繋げられるよう互いに伝え合うことで日々のケアに還元し、これからも、それぞれが気づいた変化をお



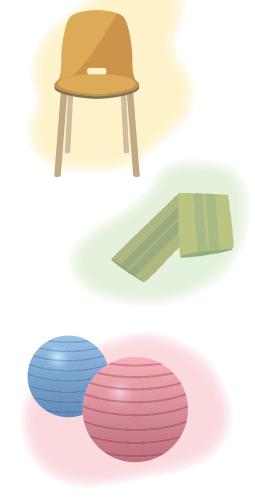
デイに行かないときも

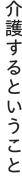
Ł, いました。 らもよろしくね!」と、おっしゃってくださ ないときも運動するようにしたよ! これか が動くようになった。だから、デイに来てい 理解くださるようになり、「デイに来て身体 されていないA様がいらっしゃいました。 用者で、利用開始当初はあまり積極的に活動 職員がリハビリや活動をA様にお勧めする 当グループのデイケアに通われているご利 日が経つにつれて徐々にその重要性をご

> れているそうです。 や運動を自主トレとしてご自宅でも行ってく A様は、日々スタッフが提供している体操

理学療法士/F

張ってサービスを提供してきてよかったなと からも支援させていただきたいと思います。 きも」楽しく運動していただけるよう、これ しているときだけでなく「デイに行かないと 思い、とても嬉しかったのを覚えています。 在宅生活を継続するためにも、デイにいら A様の自主トレのお話を伺ったとき、







ていくことが介護という仕事です。 がよりノーマルな生活ができるように支援し 残存能力を生かし、引き出すことでご利用者 立支援です。ただお世話をするのではなく、 きました。 介護という仕事を始めてからずっと考えて "介護"とは、 介護というのは、簡潔に言えば自 なんだろうか。

> それぞれ、千差万別だからです。 すいようで、とても難解なものでもあります。 なぜならば、ノーマルな生活といっても人 しかし、゛ノーマル゛という指針は分かりや

介護職員/U

なのかを常に自問自答します。 ゆえに、この人にとってどんな介護が必要

ていないだろうか。 ろうか。過剰な介護でその人の能力を抑圧し けれど、善意の押し付けにはなっていないだ ていないだろうか。」と。 何ができただろう。 「自分はこの人たちに何ができるのだろう。 心の声をないがしろにし ありがとうと伝えている

るかもしれません。 ませんし、むしろ、 ちらの善意が相手にそのまま伝わるとも限り 人それぞれ考え方も感じ方も違います。 余計なお世話になってい

の声を汲み取った介護ができればと思うばか います。だからこそ、 よりよい介護とは何なのか。 その答えは、 ご利用者の心の中にあると思 少しでもご利用者の心

西山スマイル Vol. 1

発行日: 2024年2月14日 第1刷

発行者:医療法人社団 一穂会 西山病院グルース

https://www.nishiyama.or.jp/

© 2024 Nishiyama Hospital Gloup